

## 学位論文内容の要旨

		要 旨
学位申請者	玉浦 有紀 【ライフサイエンス専攻 平成28年度生】	<p>本研究は、我が国で 30 万人を超える「維持血液（濾過）透析（Hemodialysis (Hemodiafiltration) : HD (F)) 患者」の医療アウトカムに重要な「自己管理」に焦点を当てた研究である。HD (F) 患者をはじめ、慢性疾患の自己管理を達成には、医療者から提言された管理行動に、同意し行動すること＝アドヒアランスが必要であり、HD (F) 患者では、食事・水分管理のアドヒアランスが重要である。しかし、内容が多岐にわたる食事・水分摂取の管理は、最も達成が困難な課題とされ、改善に向けた介入視点を獲得するため、以下の研究 1~4 を実施した。</p> <p><b>研究 1 食事・水分管理アドヒアランスに関わる「実態行動」の検討</b> HD (F) 患者の食事・水分管理アドヒアランスに関わる「実態行動」を患者自身の自己申告で評価する尺度を開発し、18 項目から成る食事・水分摂取行動尺度（5 下位尺度含む）の信頼性と妥当性を確認した。</p> <p><b>研究 2 食事・水分管理アドヒアランスの自己申告に寄与する要因の検討</b> 「自己申告（DDHQ）」で、患者自身が「ノンアドヒアランス」と評価することに寄与する「客観的指標のノンアドヒアランス評価」や「食事・水分摂取行動」を多変量ロジスティック回帰分析で検討した。その結果、「調理・購入法による調整を行わないこと（行動）」や「透析間体重増加量が過多であること（客観的指標）」の寄与が示唆された。</p> <p><b>研究 3 透析間体重増加量に関わる要因の検討</b> ノンアドヒアランスに該当する者が多いことが示された「透析間体重増加量」に焦点をあて、ノンアドヒアランスとなる患者背景を検討した。その結果、体格（BMI）で異なる特徴（属性・食事・水分摂取行動・体重認識）を有することが提示された。</p> <p><b>研究 4 食事・水分管理アドヒアランス改善に向けた教育媒体の開発</b> 透析間体重増加量のノンアドヒアランス改善に向け、体格（BMI）を基軸としたノンアドヒアランス原因（患者背景）のタイプ別に情報提供ができる小冊子を作成し、専門家から実行可能性について評価を得た。</p> <p>本研究は、医療者側の評価のみでなく、患者側が捉える食事・水分摂取行動やアドヒアランス状況に焦点をあてることで、HD (F) 患者の食事・水分摂取アドヒアランス改善に向けた新たな介入視点を提唱した。</p>
論文題目	維持血液透析患者の食事・水分管理アドヒアランス改善に向けたアプローチ法の検討	
審査委員	(主査) 教授 赤松 利恵	
	准教授 須藤 紀子	
	講師 市 育代	
	教授 飯田 薫子	
	教授 大森 美香	